

## 面 斜

2011.3.29

○法人「新潟水辺の会」

によるサケにちなむ催しもその一つだ。上田市でシンポジウム、上水内郡信濃町などで稚魚の放流を予定だった◆バケツで放すのを心待ちにしていた子どももいただろう。催しは中止でも、放流の適期は水温の上がないこの時季という。育てた稚魚が海に下れるよう、一部の会員たちが下流のJR東日本・宮中ダム（新潟県十日町市）の魚道で、40万匹を放している◆いきさつを会員に伝えるメールを読み、複雑な気持ちになった。宮中ダムも上流の東京電力の西大滝ダム（飯山市）も、川からの取水を最大限にし、川へ流す量を減らした。震災による電力不足を補うため、水力発電の能力をぎりぎりまで引き上げたという◆メールに添付された写真を見ると、宮中ダムの下流は石だらけの河原になっていた。信濃川や千曲川の水が首都圏で使われている事実、あらためて目修中で、魚が通りやすくなる◆県内のNPO法人の「県水辺環境保全研究会」も、千曲市の千曲川で、小学生たちとサケの稚魚3万匹を放流している。生まれた川に戻ってくるのは、3〜4年後という。それまでにはどの被災地も、原発の事故をも乗り越え、立ち直っていることを心から願う。